

北東アジア地域自治体等の環境保全に関する情報交流

忠清南道の環境の現況及び主要環境政策

I. 忠清南道の環境の現況

1. 一般的現況及び環境の懸案事項

- 面積は、国土面積の8.6%にあたる 8,600.5km²、人口は、総人口の4.1%にあたる2,026,000人であり、7つの市と 9つの郡で構成されている。
- 地域内総生産(GDP)は全国比5.9%(51兆ウォン)で、全国第5位、貿易黒字は全国の広域市・道のなかで第1位であり、韓国の国土の中心部に位置し、交通の要衝地域である。

2. 道政方針及び環境保全中期計画の主要指標(2015年目標)

- 忠清南道の道政方針は “健全な自然環境” を構築することであり、これは開発と保全の調和のとれた持続可能な社会の構築を目指し、自然と人間が共生する生命共同体 忠清南道を実現することである。
- 過去10年間の環境に関連する主要指標のなかで、
 - ・ 自然環境部門では、公園指定面積を 6.1%⇒7.0%、生態景観保全地域及び野生動植物保護区域を 1.07%⇒2.0%
 - ・ 生活環境部門では、上水道普及率を65%⇒85%、下水道普及率を 54%⇒80%、環境にやさしい企業の指定を 14企業⇒50企業
 - ・ 持続可能な社会部門では、生活廃棄物のリサイクル率を 45%⇒56%、国際環境交流機関を 5機関⇒10機関に増加した。

II. 忠清南道の主要環境政策

1. 自然環境分野

- 忠清南道の自然環境保全及び毀損地域の復元など持続可能な開発の資料として活用するため、地方政府としては初めて、広域生態ネットワーク構築事業や、自然環境の実態を図面化する生態地図(Biotope Map) 作成事業を推進している。
- クムガン(錦江)、海岸砂丘及び渡り鳥の主要渡来地などの素晴らしい自然環境を対象として、環境教育場及び体験施設を配置した自然生態公園を造成する事業や、地域別特徴を活かした忠南の名品森作り事業などを実施している。

2. 生活環境分野

- 各機関に分散している水の管理機能を統合運営するため、水統合管理本部を発足し、水管理の統合化を図るとともに、忠清南道で最も大きな川であるクムガン(錦江)水系の水質改善のための水質汚染総量管理制を実施している。
- また、エコ企業経営を積極的に実践している企業を対象に、環境にやさしい企業として指定し、企業の自主的な監視活動を通じたエコ経営を誘導するために、指定事業所数を拡大しているほか、河川の生態系復元のために自然型河川の浄化事業を推進している。

3. 持続可能な社会の分野

- 地球全体の環境問題として顕在化している気候変動に対応するため、忠清南道では気候変動対策推進本部を発足し運営しており、気候変動対応基本戦略を制定し、10部門で31の施策を推進している。
- 特に忠清南道内の火力発電所4か所で発生する温室効果ガス量が忠清南道全体の温室効果ガス発生量の70～80%を占めているため、2013年までに、延べ1兆ウォンを投入して、温室効果ガス発生量を5%削減できるよう、発電所と協定を締結して推進している。
- さらに、エネルギー特区の造成など、新・再生エネルギーを普及拡大し、韓国の未来の新たな成長動力である「低炭素グリーングロース (Low Carbon, Green Growth)」政策を実現するために、忠清南道のシンクタンク的な役割を果たす「緑の忠南推進協議会」を発足した。また、住民の低炭素型の生活様式の普及拡大のために、機関、団体、企業などの社会の各分野が参加する官民パートナーシップ型の国民実践ネットワークである「忠清南道グリーンスタートネットワーク」を発足し、運営している。
- その他、北東アジア地域の環境問題に共同で対応していくため、国際環境交流を拡大しているほか、公共機関のエコ商品の義務購入など資源循環型社会の基盤の構築に取り組んでいる。

4. エコ道庁への移転のための新都市造成及び環境汚染被害の解決

- 現在、2012年を目標に、道庁移転事業を積極的に推進している。道庁新都市は自然と共生するエコ都市 (Ecopolis) として、エネルギーの流入を最小限とするカーボンニュートラルの都市であり、世界的な気候変動に対応したモデル都市として造成する計画である。
- 最近、忠清南道では、アスベスト廃鉱山による住民健康管理が解決すべき問題となっている。忠清南道内の17か所のアスベスト廃鉱山の住民健康被害に関連して、アスベスト対策本部を設置し、現在の被害状況調査や住民健康検診を実施しているほか、中央政府との緊密な協力のもと、アスベスト廃鉱山の迅速な復元に取り組む計画である。
- また、2007年12月に忠清南道の西海岸で発生した、ホベイスピリット号の油流出事故については、全国民が一致団結し油防除作業を実施した結果、以前のような美しい生態環境を取り戻すことができ、泰安の奇跡を起こした。2008年12月には事故1周年を記念して、泰安国際環境フォーラムを開催したところである。

5. 今後の環境政策の推進方向

- 「低炭素グリーングロース (Low Carbon, Green Growth)」政策の実現のために、開発と保全の調和を踏まえ、環境管理システムを事後管理から事前防止へと転換するとともに、忠清南道グリーンスタートネットワークを中心として、カーボンポイント制の拡大、緑の消費、1団体1行動など、道民総ぐるみ運動の展開を通して、気候変動への対応を率先する自治体として取り組んでいく計画である。
- また、新・再生エネルギーの開発と普及の拡大、水質改善ときれいな水の安定的供給、大気質の改善、資源循環型社会の構築のための環境政策を推進するとともに、これまで推進してきた中国江蘇省との環境行政交流など、北東アジア地域の環境問題に共同で対応していくための国際環境協力等の交流活動も拡大していく計画である。